

【国際学術交流セミナー報告】

国際学術交流セミナー報告

苑 志佳

日時：2015年11月27日（金）10:30～12:00
 場所：一橋大学経済研究所 3 階大会議室
 テーマ：Income Inequality and Wealth Inequality in China
 （中国における所得の不平等と財産格差）
 講師：李 実（北京師範大学所得分配研究院執行院長・教授）
 司会：馬 欣欣・黒崎 卓
 学会国際交流代表：苑 志佳

◆講師紹介◆

李実 中国の著名な経済学者。南京大学経済学院卒，北京大学大学院修士課程修了。中国社会科学院経済研究所の研究員を経て，北京師範大学経済と工商管理学院教授。現在，北京師範大学所得分配研究院執行院長。主な研究領域は開発経済学と労働経済学，主な研究課題は所得分配や貧困問題など。所得格差に関する実証研究分野における中国の第一人者。中国における経済学研究の最高賞である孫冶方賞や国連人間開発賞などを受賞。中国政府の人的資源と社会保障部や國務院貧困救助弁公室の専門委員，海外の研究機関の研究員・顧問なども兼任。

◆セミナー概要◆

本セミナーへの参加者は31名であった。セミナーの冒頭で苑志佳理事が学会を代表し挨拶の言葉と学会の概要を述べた。

李教授の報告は1) 背景，2) 中国における所得不平等問題の変化，3) 所得不平等問題の解決，4) 急激に高まる富分配の不平等問題の4部から構成された。

まず，過去30数年間の改革開放を経た中国は様々な経済制度・社会政策の変化を経験してきたが，本報告の背景として特に3点が挙げられた。第1に国有企業の民営化，第2に民営企業の発展，そして第3に公共セクターの賃金システムの改革である。これらの背景のもとで中国は主に「二つの挑戦」すなわち深刻な所得不平等と高まる富分配の不平等に直面していることが述べられた。

次に，所得不平等の変化に関しては次の点が指摘された。過去30数年の間に不平等問題が常に行進し，2007～08年頃，ピークを迎えたが，その後，国全体としての所得不平等問題はやや沈静化し始めた。李教授の分析によると，中国の所得不平等度合は現在，クズネッツ逆U字型カーブの転換点へ接近しているが，依然として上昇する状態にある。高まる所得不平等の原因としては1) 都市部と農村部の間に存在する大きな格差，2) 市場化改革の未完成，3) 教育に由来した所得格差の拡大，4) 汚職の存在の4点が挙げられた。

一方，国全体としての所得不平等問題は好転している。Gini 係数の変化（2000年の0.49から2012年の0.45へ低下）はこれをはっきり示す。この主な原因は，都市部と農村部の間の家計レベルの所得格差が縮まったことである。とりわけ，農家の所得増加はこれに寄与した。それ以外の原因は農業税の廃止，義務教育の無料化，低収入家庭への救済，農家への農業補助金支給，戸籍制度の改革，新農村医療保険と年金制度の創設，貧困撲滅といった様々な社会政策の実施も寄与したと考えられる。

他方、格差を広める力も存在する。たとえば、所得増加は住宅価格の上昇および富の分配の不平等などと併存している。李教授の研究によると、2002～10年の8年の間に中国の Gini 係数は20%上昇したという。これほど急激に上昇した国は中国だけである。富の分配の不平等問題について、李教授は「改革」と「政策」によって解決することを提唱した。また、中国経済の

「新常态」は不平等問題の解決に寄与する可能性もあるという。

報告後、フロアからは多くの質問と指摘があったが、論点は 1) 政治的自由と社会的流動性の行方、2) 高所得層の処置、3) 所得再分配の効果などに集中し、これらの点をめぐって活発な討論が行われた。

(文責 立正大学 苑 志佳)